

機関番号：82705
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2010
課題番号：20530899
研究課題名(和文) 特別支援教育における国際生活機能分類児童青年期版活用のための研修パッケージ開発
研究課題名(英文) Development of Training Material for the Use of ICF-CY on Special Needs Education in Japan
研究代表者
徳永亜希雄 (TOKUNAGA AKIO)
独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 企画部 主任研究員
研究者番号：10359119

研究成果の概要(和文)：

本研究では、特別支援教育における ICF (国際生活機能分類) 及び ICF-CY (同児童版、但し、タイトルは申請時の筆者仮訳の「児童青年期版」を使用) 活用のための研修パッケージとして、①ICF 及び ICF-CY に関する基本的な知識と活用動向等に関する講義形式パッケージ、及び②ICF 及び ICF-CY の概念図を模した図(以下、「ICF 関連図」)作成を通して子どもの実態整理と指導・支援の検討を行う演習形式パッケージについてそれぞれ開発・実証を行うことを通じて、研修パッケージの在り方について検討した。

本研究を通して以下の点が明らかになった。

- ①研修パッケージの使いやすさ等は、ICF を既に見ていたかどうかによって左右され、ICF を既に見ている人ほど分類項目を用いたコーディングを難しいと感じる傾向にあり、そのことは ICF 及び ICF-CY の概念的枠組みを用いた取組がこれまで中心であったことが背景として考えられること。
- ②子どもの理解と指導・支援の検討のために「ICF 関連図」作成演習が有効であり、「ICF 関連図」作成演習では、仮想事例だけでなく、実際事例に取り組んだほうが作成手順の分かりやすさや具体的な作成作業の分かりやすさ等が増し、より実際の活用に寄与できると考えられること。
- ③ICF 及び ICF-CY 活用が寄与できる特別支援教育での課題について検討し、特別支援教育という文脈での活用という観点からの知見について研修内容として盛り込む必要があること。
- ④参加者の ICF 及び ICF-CY への認知度やニーズに合わせた複数のパッケージを開発する必要があること。
- ⑤活用にあたっては、ICF 及び ICF-CY 並びにその活用に関する知識について幅広い理解啓発が必要であること。そのための手立てとして、主に ICF 及び ICF-CY についてほとんど知らない人たち向けの「よくある質問と答え (FAQ)」のような基礎的な内容を知らせるものの必要性和、活用経験者向けの事例検討を交えた研修内容の必要性があること。前者に対応して作成したものは当研究所の Web サイトにアップし、後者に対応したものは「ICF 関連図」作成手順として整理し、当研究所の研修事業等で活用した。
- ⑥本研究期間では開発に至らなかったが、i) 自主研修を支援する Web ツール、ii) 研修、特に演習のコーディネートの仕方についての検討の必要性が考えられること。

研究成果の概要(英文)：

This study aimed development and demonstration of training materials for the use of ICF-CY on Special Needs Education(SNE) in Japan. This study adopted literature study, field study in special schools, and questionnaire study using draft version of training materials for SNE teachers. It was attempted for demonstration to develop 1)lecture contents to understand ICF-CY and perspective of the use of ICF-CY on SNE, and 2)workshop contents to make plan for guidance and support students with special needs using conceptual framework of ICF-CY, as training material, based on ICF-CY training experiences of some colleagues.

This study indicated as follows.

- 1) The result that respondents answered depends whichever they had already known

ICF/ICF-CY or not. Many of them mentioned difficulty of coding. The reason was they were affected by that many of people who had used just conceptual framework of ICF/ICF-CY, not using codes in Japan

- 2) Workshop contents are effective to make plan for guidance and support students with special needs. It is more effective to including treating actual cases in the workshop, than treating only virtual cases.
- 3) Materials should include contents of context of the use of SNE aspect, not only general use.
- 4) It is useful to make some kinds of training materials that can adapt the level of understanding ICF/ICF-CY of Participants (eg. For Beginners, the Advanced)
- 5) It is necessary to disseminate knowledge of ICF/ICF-CY broadly for the use.
- 6) It is helpful to for lots of users the web based tool and the manual to coordinate work shop, although it was not completed in this study.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	1,000,000	300,000	1,300,000
21年度	600,000	180,000	780,000
22年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：特別支援教育

キーワード：特別支援教育、ICF-CY、研修パッケージ

1. 研究開始当初の背景

- (1) 特別支援教育において ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類) を活用する取り組みが広まると共に、特別支援学校での教育課程の基準等を検討している中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会特別支援教育専門部会でも、ICF を活用する必要性が指摘された。
- (2) ICF-CY (ICF Children and Youth version, 同児童版) が WHO から刊行され、日本語版確定訳が待たれる状況にあり、従前の研究から、ICF より ICF-CY のほう特別支援教育での活用には適しているという報告があった。
- (3) 本研究所等に対して寄せられる、ICF 及び ICF-CY の活用についての研修会講師の依頼数は増え続けているものの、研修の在り方について検討した報告は少なく、特に方法論や成果、妥当性の検証等については国内での報告は見られず、検討を急ぐ必要性があった。

(4) 国際的には、WHO 国際分類ファミリーネットワーク会議内の組織によって、ICF 活用に関する研修内容・方法の検討が着手され始めており、筆者が検討小グループとの協力関係にあったため、緊密に連絡を取り合いながら検討を進めることになっていた。

2. 研究の目的

本研究では、日本の特別支援教育において、ICF 及び ICF-CY を活用するために役に立つ、具体的な研修パッケージの在り方を検討することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 文献研究、特別支援学校等への実地調査及び国内外での学会における途中成果報告と自主シンポジウム開催を通じた資料収集。
- (2) これまでの関連研修の資料を収集し、① ICF 及び ICF-CY に関する基本的な知識と活用動向等に関する講義形式パッケージ、及び② ICF 及び ICF-CY の概念図を模した図 (以下、「ICF 関連図」) 作成を通じた子どもの実態整理と指導・支援の検討を

行う演習形式パッケージについてそれぞれ試作版を作成する。

- (3) 主に特別支援教育にかかわる教員を対象とした研修会の中で試作版を用い、参加者に質問紙調査を依頼し、結果の検討をする。併せて、研修会後に参加者から寄せられた email を介した質問や意見についての検討を行う。調査結果等の分析の際は、回答者の属性による検討や、「ICF 関連図」作成演習における、仮想事例についてのみ「ICF 関連図」作成演習を行った参加者群と仮想事例後に実際事例についても作成演習を行った群の比較検討等を行う。

- (4) (1) で得られた知見や (3) で得られた知見、及び当研究所の「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」の研究成果等を取り入れながら、(2) で作成したパッケージ試作版の改定版を作成し、これらの手続きを数度繰り返して改善版を作成し、研修パッケージの在り方について検討する。

4. 研究成果

- (1) 研修パッケージの使いやすさ等の回答傾向は ICF 及び ICF-CY を既に知っていたかどうかにかかわらず左右される。ICF を既に知っている人ほど分類項目を用いたコーディングを難しいと感じる傾向にあり、そのことは ICF 及び ICF-CY の概念的枠組みを用いた取組がこれまで中心的であったことが背景として考えられる。

- (2) ケースの理解と支援のために「ICF 関連図」作成演習が有効である。「ICF 関連図」作成演習では、仮想事例だけでなく、実際事例に取り組んだほうが作成手順の分かりやすさや具体的な作成作業の分かりやすさ等が増し、より実際の活用に寄与できると考えられる。

- (3) ICF 及び ICF-CY 活用が寄与できる特別支援教育での課題について検討し、特別支援教育という文脈での活用という観点からの知見を研修内容として盛り込む必要がある。

- (4) 参加者の ICF (含む、ICF-CY) への認知度やニーズに合わせた複数のパッケージを開発する必要がある。

- (5) ICF-CY とその活用に関する幅広い理解啓発が必要である。そのための手立てとして、主に ICF 及び ICF-CY についてほとんど知らない人たち向けの「よくある質問と答え (FAQ)」のような基礎的な内容を知らせる

もの必要性和、活用経験者向けの事例検討を交えた研修内容の必要性が示唆された。前者に対応して作成したものは当研究所の Web サイトにアップし、後者に対応したものは「ICF 関連図」作成手順として整理し、当研究所の研修事業等で活用した。

- (6) 本研究期間では開発に至らなかったが、i) 自主研修を支援する Web ツール、ii) 研修、特に演習のコーディネートの仕方についての検討の必要性が考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 徳永亜希雄、解説：ICF (国際生活機能分類) とは何か、特別支援教育研究、10 月号、査読無、2008、22-25
- ② 徳永亜希雄、諸外国における学校教育への ICF-CY (国際生活機能分類児童版) 活用の取り組み、世界の特別支援教育、24 巻、査読無、2010、29-33
- ③ 徳永亜希雄、松村勘由、加福千佳子、小林幸子、特別支援教育における ICF 及び ICF-CY 活用について考える、国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」研究成果報告書、査読無、2010、45-56
- ④ 徳永亜希雄、松村勘由、加福千佳子、小林幸子、「ICF 関連図」の活用について、国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」研究成果報告書、査読無、2010、57-62
- ⑤ 徳永亜希雄、加福千佳子、小林幸子、松村勘由、「特別支援教育における ICF 及び ICF-CY 活用に関するよくある質問と答え (FAQ)」について、国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育における ICF-CY の活用に関する実際研究」研究成果報告書、査読無、2010、147-157

[学会発表] (計 4 件)

- ① Akio Tokunaga, Koji Tanaka, Naoko Okubo Development of Training Materials to Utilize ICF-CY for Special Needs Education (SNE) in Japan、2008 ICF 北米協力センター会議、2008 年 8 月 26 日、カナダ・ケベック
- ② 大久保直子・田中浩二・徳永亜希雄、研修ツールとしての「ICF 関連図」作成手順例作成の試みー「ICF 関連図」を活用したワークショップ形式の研修への参加者アンケートの分析を通して、日本特殊教育学会第 46 回大会、2008 年 9 月 21 日、鳥取県米子市

- ③ Akio Tokunaga, Koji Tanaka, Implementation of Development Training Materials to Utilize ICF-CY for Special Needs Education (SNE) in Japan、WHO 国際分類ファミリーネットワーク会議、2009年10月、韓国・ソウル
- ④ Akio Tokunaga, Koji Tanaka, Kanyu Matsumura, Chikako Kafuku, Sachiko Kobayashi , The Visibility and Perspective of ICF and ICF-CY on Special Needs Education in Japan、2010ICF 北米協力センター会議、2010年6月、アメリカ合衆国・ベセスダ

〔図書〕(計1件)

- ①徳永亜希雄、他、日本文化科学社、発達障害白書 2011年度版(本書中、「教育におけるICFの活用」の箇所を執筆)、2010、65-66

〔産業財産権〕

- 出願状況(計0件)
○取得状況(計0件)

〔その他〕

特になし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

徳永亜希雄 (TOKUNAGA AKIO)

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所・企画部・主任研究員

研究者番号：10359119

(2) 研究分担者

なし。

(3) 連携研究者

なし。